

市之川公民館だより

平成 30 年 11 月号
(No.539 号)
発行：市之川公民館
西条市市之川 6678-1
Tel&Fax： 56-3300

11月 霜月（しもつき）

次第に寒くなってまいりました。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

これからは日に日に寒くなってまいります。皆様には風邪などひかれぬように十分に気をつけて、暖かくしてお元気にお過ごしください。

《11月の行事予定》

日	曜	行事・時刻・場所
3	土	祝 文化の日
10	土	カラオケ会 10:00～ 集会室
13	火	保健所巡回(午前中)
23	金	祝 勤労感謝の日
24	土	カラオケ会 10:00～ 集会室

※ 大西町史談会の研修

9月20日(木)に大西町史談会の皆さん28名が研修においでました。



※ 巡検

9月29日(土) 県高等学校理科部会地学部門の巡検がありました。愛媛大学の皆川先生他18名の方々が来館されました。



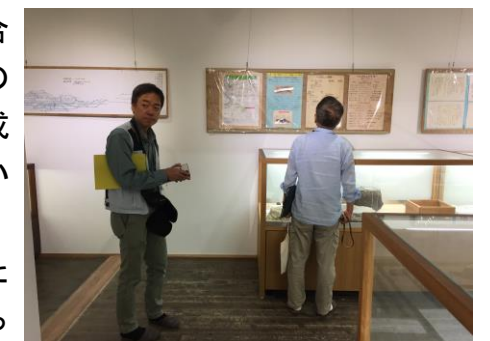
※ 崩落

9月30日(日)に来襲した台風24号の影響で八堂山の巻き道6か所と芸子谷が崩れました。翌10月1日(月)には車が通ることができるよう土砂を撤去してくれました。対応の早さに感謝です。しかし、公民館の少し上では、道が約20m程ずれ落ちてなくなっています。現在、通行不可の状態です。



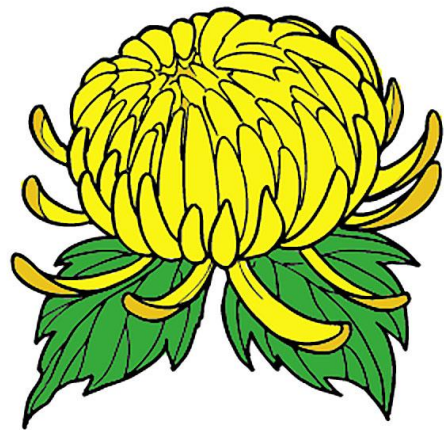
※ 来館

10月4日(木)、茨城県つくば市の産業技術総合研究所から清水博士(この方は2回目)と高知大学の中山特任研究員が来館されました。市之川鉱山の成り立ち等についての論文を書かれるとのこと、いろいろと勉強になるお話をしてくださいました。とても熱心でした。こちらからは、研究のためにたくさんの試料を提供しました。役に立って、素晴らしい研究をされることを期待しています。



※ 視察研修

10月23日(火)、四国カルストへ視察研修に行きました。雄大な景色を見ることができずだったのですが、あいにくの霧と雨の天候のため、何もみることができず残念でした。



- | | | | | | | | | | |
|-------|-------|------|-------|-------|--------|-------|---------|---------|--------|
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 十四日 | 名月に | 台風で | 赤と黄色の | チンドンと | 七年の | 高接も | お茶の木に | 焼き栗も | お茶漬けで |
| 宮出し前の | 太鼓の音の | 道が壊れ | 彼岸花咲き | 祭り太鼓が | 付き合い実り | 五年月日 | ミツバチ通いし | ぼんぼん跳ねて | 高菜カス漬け |
| 夜静か | 遠くして | 水が出ず | | 勇ましく | ゴールかな | みかんなる | 陽気かな | 秋の空 | もう一杯 |
| | | | | | | | | | |
| 館長 | 館長 | 知敏 | 知敏 | 知敏 | 正 | 正 | 正 | 正 | 正 |

文芸欄

虚しい比較



ダイアナ・マリー・リントン
(西条市地域振興課国際交流員)

異文化理解を深めるために、そして異なる国籍、民族、文化、背景を持つ人とのコミュニケーションを上手く進めるために欠かせないことの一つをお伝えしたいと思います。それは「人の痛みを比べるものではない」ということです。

苦しんでいる時に、人はその痛みについて言葉にできないものです。心に秘めた痛みや悲しみを口にした途端、現実が苦しみがより顕在化するのではないのでしょうか。言葉は負の感情に力を与えがちです。ですから、痛みを他人から隠す傾向があると思います。もし誰かが痛みについて素直に話をしたら、それほどあなたを信頼できるという証拠なのです。しかし、信頼しているのに、相手がすぐに「でも、他の人の痛みに比べたら大したものではないですよ」と返したら、その瞬間に信頼が失われる上に、二人の間に壁がつけられます。そして、心の悩みを二度とその人には打ち明けたくないでしょう。

なぜ、私がこの話をしたいかという、アメリカ社会で人種差別は私の人生に影響を与えるからです。両親の努力と愛情のおかげで恵まれた環境で育ちましたが、私も家族も人種差別から完全に守られていません。だから、親しくなればなるほど、いつか私は差別された経験や差別に関する社会問題について話すようになりました。一人で落ち込むよりは親しい友達と話して、癒されて、嫌な思いを半分にしたと思う時もありました。別に自分がかわいそうだとは思っていませんが、信頼できる友達が、すぐに「黒人だけではなく、白人の民族の間にも差別があるよ」と言い、他の人種や民族の問題と比べ始める事もありました。同じような差別を一度も受けたことがなく、アメリカの奴隷と公民権運動の歴史とその歴史から生じた社会問題について勉強されていない方からこのような反応を聞いた途端、自分の心の中に壁をつくってしまいます。それは日々の生活を頑張るためなのです。

人の痛みを比べるのは、何の意味もありません。差別は様々ありますが、「誰の差別が一番ひどい」と聞いたとしてもそこからは何も生まれません。差別は比べるものではないと思います。むしろ、心が閉ざされてしまいます。「制度的差別によりどんな障がい生まれ、それに対して何をすれば社会が改善されるのか」「精神的差別により起こるいじめ、暴力、疲れに対して、私たちのコミュニティ（地域社会等）は何をすればいいのか」等を聞くべきです。

そして、人権問題について皆さんに伝えたいと思っているなら、気になっている人権問題が他の人の差別や経験より大切だと考えないでください。認識すべきなのは、差別の「分類」や「程度や範囲」により優先することではなく、差別の「存在」に敢然と立ち向かわなければならないということです。差別を完全になくせないと言う人もいますが、諦めて何もしなくていいと思えるのは被差別の立場から考えたことがないからでしょう。

異文化理解を深めるために、他人の靴をはいて歩いてみましょう。